

金融政策から主要通貨の方向性を考える

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 昨秋から主要通貨の動きに変化

昨秋から主要通貨の動きに変化がみられています。昨年11月まではFRB（米連邦準備制度理事会）が積極的な利上げを行っていたこともあり、主要通貨に対して米ドルが買われる展開が続いてきました（右上図）。ただ昨秋以降では、米ドル高の動きが一服し、ユーロやポンド、円が対米ドルで上昇基調にあるなど、昨秋までとは異なる値動きとなっています（同図）。こうした動きは今後も継続するのでしょうか。

ポイント② 金融政策の方向性の違いがポイントに

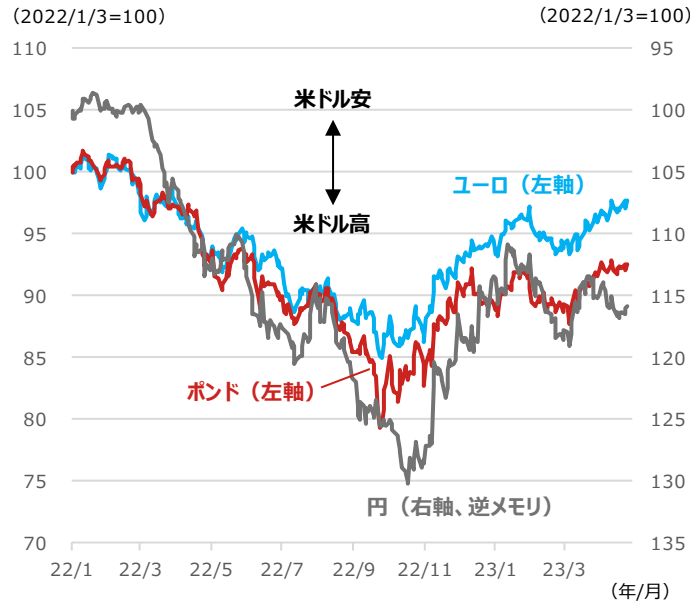
米国ではCPI（消費者物価指数）の前年同月比の伸び率が9ヵ月連続で鈍化するなどインフレ圧力が一時期と比べ和らいでいます。また米国は地銀の一部で預金流出が顕在化していることを受けて、金融不安に伴う信用収縮の懸念が強まっており、年末までにFRBが利下げに動く可能性が市場では意識されています（右下図）。

一方、ユーロ圏や英国では、CPIの伸びが依然として高水準であり、ECB（欧州中央銀行）やBOE（イングランド銀行、中央銀行）が年末にかけて現在よりも政策金利を引き上げると市場は見込んでいるようです（同図）。

日本も植田日銀新総裁の下で金融政策の修正観測が高まっている状況であり、市場では今後の物価動向次第で日本銀行が若干の利上げを行なう可能性を織り込んでいます（同図）。

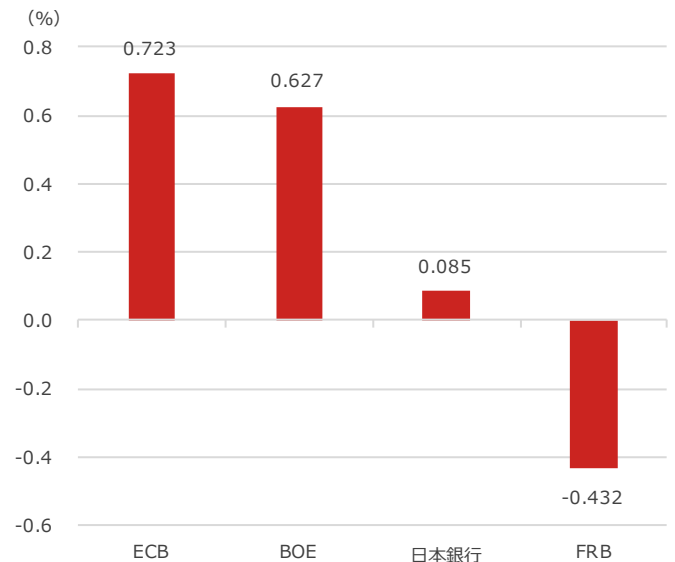
各国の金融政策の方向性やその度合いから考えると、当面は対米ドルに対して主要通貨が買われやすい展開が続きそうです。

ユーロ、ポンド、円の対米ドルレートの推移



期間：2022年1月3日～2023年4月26日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米欧英日中銀の現時点から年末までの政策金利変化幅予想値



期間：2023年4月26日～2023年12月時点
・FRBはFF（フェデラルファンド）金利先物市場から算出した年末までの政策金利変化幅予想値、ECB、BOE、日本銀行は短期金融市場から算出した年末までの政策金利変化幅予想値
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。